六甲山自然探訪 芦屋の山々(パート1) 報告書

実施年月日、 平成19年3月10日(土) 9:00~15:00 天候 晴から曇

コース 阪急芦屋川駅~高座の滝~{中央尾根道 / 地獄谷道}~風吹岩~横池~雨ヶ峠~東お多福山~東お多福山登山口バス停、ここからバスで芦屋川駅へ

参加者、 会員18人 一般20人 合計38人

駅から住宅地を抜け滝までの道筋にはマンサク、サンシュウ、雪柳、ミモザ、モクレン、ツバキ、エリカの花が、高座の滝からの山では、コバノミツバツツジ、ヤシャブシ、ハンの木、スミレ、アセビ、トサミズキなどの花がむかえてくれました。

高座の滝から東お多福山のこのコースは樹や花よりも変化に富んだ山の姿を、理屈ぬきで目と脚と手で確かめ、体感するコースです。
ロックガーデンの男性的な荒々しさと、東お多福山のその優美な女性的容姿が組み込まれた、六甲山でもトップクラスの楽しい登山みちです。

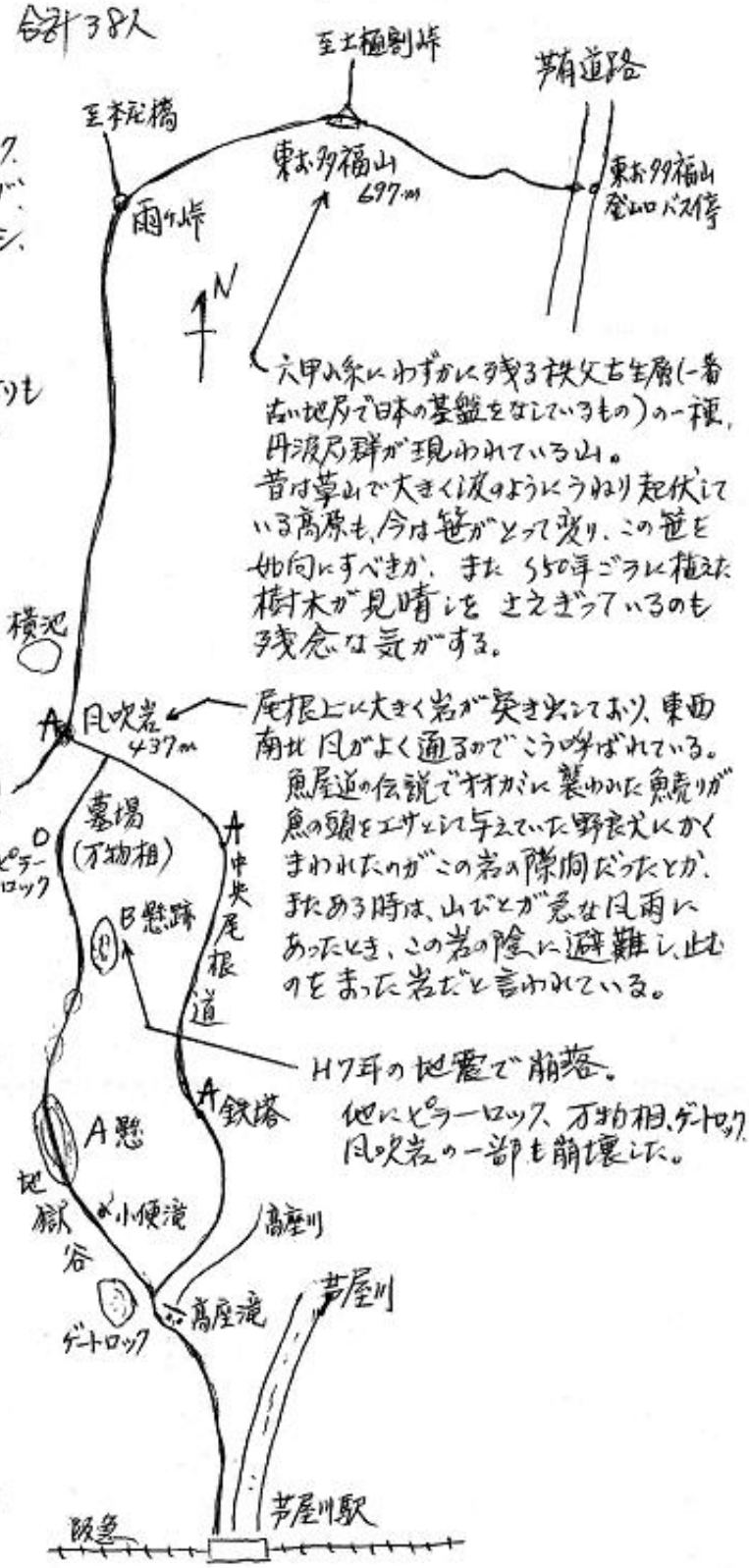
芦屋ロックガーデン

地域は高座の滝から北へ荒地山、東西は芦屋川右岸から魚屋道までの一帯をさす。
ここは風化のすすんだ粗粒花崗岩地帯なので浸食され崩壊が大きく、昔の姿とずいぶん変った所が多い。

芦屋はロッククライミングを初め近代登山の発祥地。
日本に於ける近代登山(かんたんに言えばスポーツとしての登山)は大正末期、藤木九三を中心とするRCC(ロッククライミングクラブ)によって開拓され、その場は芦屋の山々であった。

藤木九三

1970年(S45) 82才で死亡、芦屋ロックガーデンの命名者、(他に僅里岩、トップエンティクロス、甲子園球場のアルプススタンドなどあり)
1929年(T13) RCCを創設し、芦屋の山で磨いた技術は穂高滝谷の初登攀やマッターホルン登頂など登山史に残る。高座の滝壁面に彼の銅板レリーフが設置され、命日である9月30日に最も近い日曜日に藤木祭が行われている。(穂高滝谷の出合にも同じレリーフが取り付けられている)



六甲山系にわずかに残る秩父古生層(一番古い地層で日本の基盤をなしているもの)の一種、丹波層群が現われている山。
昔は草山で大きく波のようにうねり起伏している高原も、今は笹がとって変り、この笹を如何にすべきか、また5・60年ごろに植えた樹木が見晴しをさえぎっているのも残念な気がする。

尾根上に大きく岩が突き出ており、東西南北風がよく通るのでこう呼ばれている。
魚屋道の伝説でオオカミに襲われた魚売りが魚の頭をエサとして与えていた野良犬にかくまわれたのがこの岩の隙間だったとか、またある時は、山びとが急な風雨にあったとき、この岩の陰に避難し止むのをまった岩だと言われている。

H7年の地震で崩落。

他にピラーロック、万物相、ゲートロック風吹岩の一部も崩壊した。

(一般参加者の大部分は道が整備され安全な中央尾根道を登ってもらいましたが、機会があれば西側の地獄谷をゆっくり歩くハイキングを催したく思っています。)

H19. 3. 12 賀林